

## 第二問(古文) 解答例

※設問番号は、文科のもの。

(一)  
○阿野権守と加若次郎の二人が謀叛をおこそうとしているという息子のうそを信じ、罰せねばならないと思ったから。

(二) イ  
○身動きをしようとすれば、内に飛び出た釘が体にささるように牢獄を作った。

(二) エ  
○出家をして俗世を逃れ、深い墨染の尼僧装束を着たいものだ。

(三)  
※採点基準の〈大前提〉となっている〈掛詞の理解〉ができていない答えは、本当にわずかしかなかった。そのため、ほとんどの答えが0点となっている。〈掛詞の理解〉ができていない答えも、掛詞の説明に字数を割いたために傍線部中の語句の解釈が書いておらず、やはりほとんど得点できていなかった。

(四)  
△身ごもっているために、出家をすることが思い通りにできないのが辛い。  
↓「けり」の訳出忘れで1点減点。

(五) カ  
△和理がとらわれている東の方へ旅をしようとお思いになった。  
↓「夫に会いたい」旨を明示してほしい。1点減点。

(五) キ  
○和理の監禁を解くように藤原成次と相談しましょう。

(六) ※全体的によくできていた。減点されている人は、満点答案との違いを確認しよう。  
○人を焼く匂いがする魚を海人に集めさせ、人々を集めて児持御前の葬式のふりをするこ  
とで、姫を奪いに来る国司に姫は死んだと思込ませ、あきらめさせるということ。

○海人たちに焼くと人を焼いたときのおいのする魚を集めさせ、それを焼き、人を集めて念仏を唱えて葬儀を装い、和理を案じて姫は死んだのだと、姫を連れ去りに来た国司をだますこと。